平成30年度

第1学年

シラバス

三重大学教育学部附属中学校

もくじ

1　シラバスについて …… 1
　シラバスについて …… 1
　三重大学が大切にする４つの力(教育目標) …… 2
　本校の教育課程授業時数一覧表等 …… 3

2　学習の進め方 …… 4
　国語 …… 4
　社会 …… 5
　数学 …… 6
　理科 …… 8
　音楽 …… 9
　美術 …… 10
　保健体育 …… 11
　技術・家庭 …… 12
　英語 …… 14

3　各教科の内容 …… 15
　国語 …… 15
　社会 …… 17
　数学 …… 19
　理科 …… 21
　音楽 …… 23
　美術 …… 25
　保健体育 …… 27
　技術・家庭 …… 31
　英語 …… 34

参考資料 …… 36

シラバスについて

シラバスとは、各教科の学習内容や学習方法、評価の仕方などを記した総合的な学習計画のことです。本シラバスでは、本校の教育目標－豊かな創造性とたくましい実践力をもち、生活をきりひらく生徒の育成－を実現するために、各教科の具体的な指導内容・方法、評価の方法を示しています。

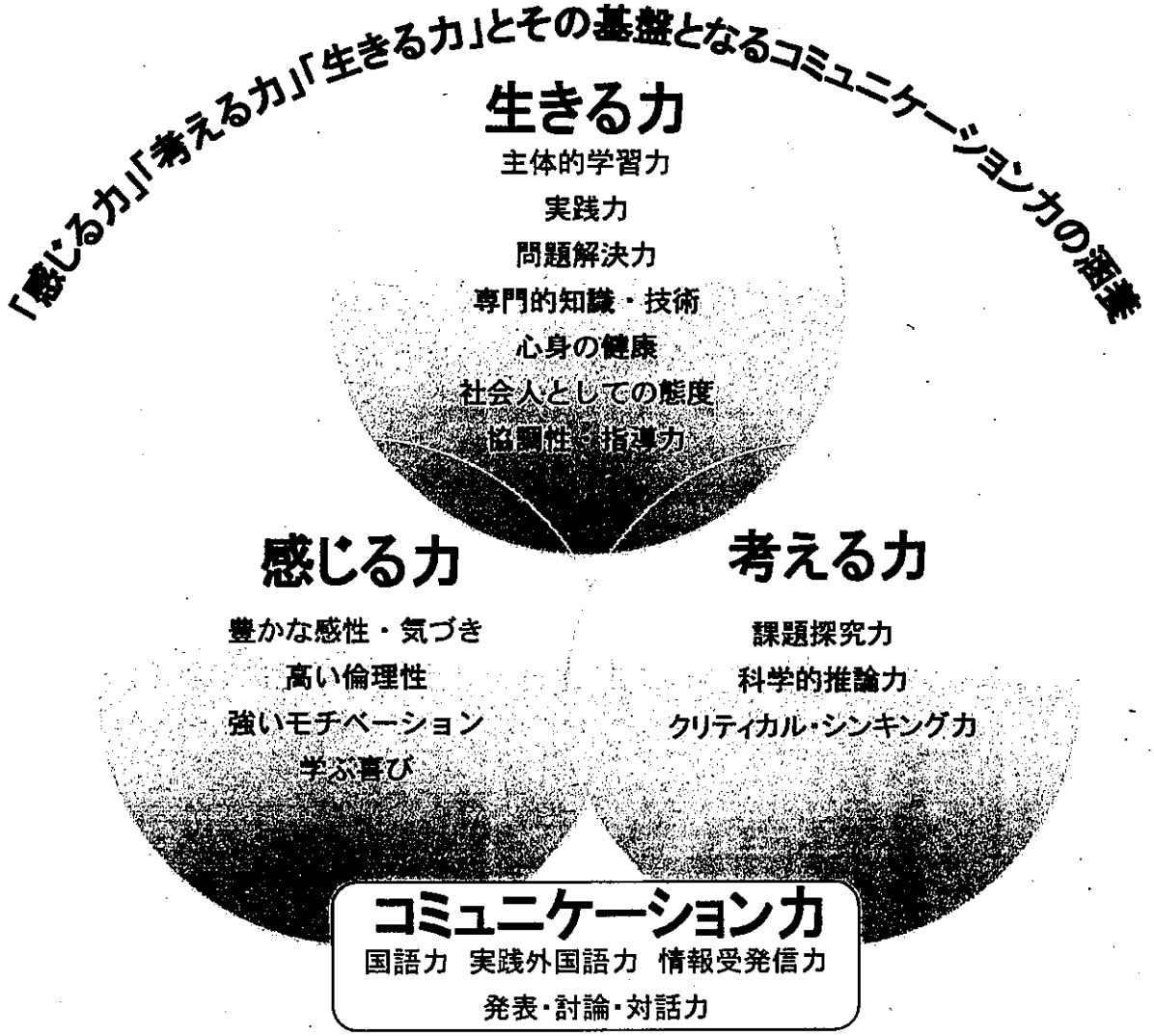
まず、教科ごとの学習の仕方を、[授業中]、[家庭学習]、[テスト勉強]に分けて、それぞれ具体的に示しました。次に、年間の「学習のねらい」、「評価の観点と評価の方法」に加えて、年間の「指導計画」を示しています。そして、指導計画の中で「教材名および時間数」、および「つけたい力」について詳細に説明しています。

生徒の皆さんは、毎日の授業や自宅での学習において、計画的・主体的に学習に取り組むことができるように、1年間の学習の「道しるべ」として積極的に本シラバスを利用してください。

また、保護者および地域の皆様におかれましては、本校の具体的な学習内容等をご確認いただき、お気づきの点などがありましたらお知らせいただければ幸いです。本校の教育目標に沿ったより良い教育を実現できるように、ご理解・ご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成30年4月
三重大学教育学部附属中学校長
牧原　義一

三重大学が大切にする４つの力（教育目標）



附属学校園共通

教育目標　「主体的，創造的に生き抜く心豊かな子どもを育てる」

めざす子ども像　・正しいことや美しいことを求め，ねばり強く行動する子ども
・お互いを大事にし，高め合おうとする子ども

附属中学校の教育目標

「豊かな創造性とたくましい実践力をもち，生活をきりひらく生徒の育成」

めざす学校像	めざす生徒像	めざす教師像
・生徒自らの学びを表現しあう学校 ・教師と生徒に心通うかかわりのある学校 ・内にも外にも開かれた学校・教師	・積極的に学び続け，豊かに表現しようとする生徒 ・なかまを大切にし，互いに高めあう生徒 ・心身ともに健やかに成長する生徒	・本物を求め，自らを磨く教師 ・実践・行動で示す教師 ・生徒に寄り添い，生徒の主体性を引き出す教師 ・同僚性をもち，ともに高めあう教師

気付きが拓く学校づくり

本校の教育課程授業時数一覧表

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語	道徳	学活	総合的な学習の時間	合計
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
	4	3	4	3	1.3	1.3	3	2	4	1	1	1.4	29
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
	4	3	3	4	1	1	3	2	4	1	1	2	29
3年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015
	3	4	4	4	1	1	3	1	4	1	1	2	29

※上段：年間時数，下段：週時数

定期テスト実施計画表

		実施時期	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語
1年	1学期中間	5/25, 28	○	○	○	○					○
	1学期期末	6/26, 27	○	○	○	○			○		○
	2学期中間	10/10, 11	○	○	○	○				○	○
	2学期期末	11/20, 21	○	○	○	○			○		○
	学年末	2/20, 21, 22	○	○	○	○	○		○	○	○
2年	1学期中間	5/25, 28	○	○	○	○					○
	1学期期末	6/26, 27	○	○	○	○			○		○
	2学期中間	10/10, 11	○	○	○	○				○	○
	2学期期末	11/20, 21	○	○	○	○			○		○
	学年末	2/20, 21, 22	○	○	○	○	○		○	○	○
3年	1学期中間	5/25, 28	○	○	○	○					○
	1学期期末	6/25, 26, 27	○	○	○	○			○	○	○
	2学期中間	10/10, 11	○	○	○	○					○
	2学期期末	11/20, 21, 22	○	○	○	○	○		○	○	○
	学年末	1/9, 10	○	○	○	○			○		○

※実施時期は，平成30年4月段階での予定です。

国語科　学習の仕方

【授業中】

◆文節や意味上の切れ目を意識しながら、適切な間と早さで本文を音読する。
◆色ペンなどを使い、わかりやすくまとめられたノートを作る。
◆板書されたものをノートに書くだけでなく、先生の話や仲間の意見からメモをとる。
◆仲間と意見を聴きあい、根拠や理由付けを捉えたり、自分の考えと同じ点や違う点を捉えたりして考えを深める。
◆問題点を明確にし、根拠と理由付けを示しながら論理的に意見を述べる。
◆積極的に発表するなど、授業に積極的に取り組む。

【家庭学習】

◆まず、授業中の取り組みが大切です。その上で家庭学習による学力アップを目指しましょう。
授業中に取ったメモを基に、わかったことや考えたことをまとめ直し、再構成する。
普段から様々な文章を読むようにする。多読は国語力を高めます。

◆漢字
①まず読めるようにする。
②画数を「いち、に、さん…」と声に出しながら、字を見て指書きをする。
③画数を声に出しながら、字を見ずに指書きをする。
④ノートに実際に書く練習をする。
⑤字や熟語の意味、実際の文章の中での使い方と合わせて覚える練習をする。

◆説明文や物語文
①教科書本文をすらすら読めるように音読練習する。
②新出漢字を覚え、意味の分からない語の意味を調べる。
③文章の内容をとらえるために、主語・述語のつながりや文どうしの接続関係を考えながら読む。
※説明文
普段から、説明的文章が書かれた本や、新聞などを読むようにする。その際、段落ごとの働きや、構成（問題提示・仮説・具体例・意見・結論・主張）を意識する。段落ごとのキーセンテンス（要点の文）に線をひいてみるのもよい。また、主張・根拠・理由付けを捉えたり、筆者が何をどのように認識しているかにも着目したりするとよい。少し頑張って読める難しさのものに取り組んでみよう。
※物語文
普段から文学的文章（小説など）を読むようにする。その際、人物の設定、主役がこだわっていること、主役の心理の変化に注目して読むようにする。また、語り手がその作品世界をどのように語っているかにも着目するとよい。自分が読んでおもしろいものを読めばよいが、夏目漱石・森鴎外・芥川龍之介・川端康成といった、文学史上に残る作家の本に挑戦するのもよい。

◆詩・短歌・俳句などの韻文
①本文を暗唱してしまうくらいくり返し読む。（現代語訳も読むとよい）
②比喩や擬人法などの表現技法のはたらきを覚え、どこに使われているかわかるようにする。
③自分なりに主題をとらえ、鑑賞文や感想を書いてみる。

◆古典・漢文
①本文を暗唱してしまうくらいくり返し読む。（現代語訳も読むとよい）
②歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直せるようにする。
③授業中に説明された古典重要語を覚える。
④作品名、作者名、成立した時代を覚える。
⑤係り結びなどの、授業中に説明された言語事項を覚える。
⑦起承転結・押韻・律詩と絶句の違いなど、構成に関する事柄がわかるようにする。
⑧自分なりに主題をとらえ、鑑賞文や感想を書いてみる。

◆文法・語句
①文法の問題集を使い、授業で習ったことを中心にくり返し問題を解く。
②習った語句は何度も声に出して書き、覚える。
③テスト前に復習して、定着を図る。

【テスト勉強】

◆まず授業中に理解しようと努力することが何より大切です。
◆教科書本文を読み直す。
◆ワークブックの問題を解き直す。
◆漢字・語句・文法・表現技法といった言語事項を覚える。
◆普段から本や新聞を読み、自分の手で文章を書き、分からない言葉はすぐに調べるといった、国語に対する態度がそのまま国語力の向上につながります。すぐに国語力はつきません。日々の取り組みを大切にしてください。

社会科　学習の仕方

【授業中】

授業の受け方

・授業前…チャイム着席を守る。忘れ物をしない。服装・身なりを整える。
（公民的資質としてルールを守ることを社会科では学ぶので，その実践として大切にしていきます。）
・授業中…自分の考えを発言する。先生の話・友達の発言をしっかり聞く。私語をしない。

ノートのとり方

・板書されたことを写すだけでなく，先生が説明したポイントや大切だと思う言葉がメモしてあるとよい。
・資料から気づいたこと，質問に対して考えたことをしっかり書く。

発表・発言

・資料や既習事実などの根拠をもとにした発言を心がける。
・仲間の意見をふまえた発言を心がける。（「○○さんに似ていますが…」，「○○さんに付け加えて…」「○○さんに反対で…」など）
・仲間の発言に対して簡単に納得をせず，疑問が解消するまでどんどん質問をする。
・考えや意見は，先生に対してではなく，クラスの仲間に対して伝わるように，大きな声で発言する。

その他

・地図帳や資料集を活用する。授業中に国名や地名が出てきたら，地図帳で場所を確認する。また，仲間の意見で疑問に思ったり，自分の考えをまとめたりするとき，資料集で根拠を探すなど確認する。

【家庭学習】

予習

・次の学習に関連する資料を集めたり、事柄を調べたりしておく。

復習

・宿題を忘れずにする。
・授業ノートを中心に，新しく学習した語句や用語などの意味を調べてノートのスペースに書いたり，授業中に話しあった内容について自分の考えや感想を書いたりする。また，関連する出来事や資料が新聞や資料集などに載っていたら，切り取ったりコピーしたりして，ノートに貼っておくとよい。
・問題集やワークなどの問題を解く。
・復習をして，わからないところ，疑問に思うところは，先生に聞くようにする。

興味を持つために

・地理的内容の番組，歴史的内容の番組，ニュース・新聞などを見るようにする。
・学習した内容をもっと深く知りたい人は，図書室の本を読んだり，ネットのサイトを調べたりする。

【テスト勉強】

・ノートを中心に，教科書や資料集を用いて，語句を確認し，授業内容をおおまかに理解する。
・社会的語句などを教科書やノートを見て確認するだけではなく，何回も言いながら書いて確認する。
・社会的用語や出来事を覚えるだけでなく，その用語や出来事の意味を理解する。
・おおまかに理解した内容を，再びノートにまとめてみる。
・授業中に確認した資料の見方，作図の仕方など確認をする。など
・図や表を用いながら，政治や経済，社会の仕組みをまとめてみる。など

数学科　学習の仕方

【授業中】

① すでに学んだことをもとにして，新しい性質や考え方をみずから発見できるように考える習慣をつけましょう。

② これまでに身につけた知識や考え方を利用して，授業の課題を考える習慣をつけましょう。

③ ほかの人の意見を聞くときは，自分の意見と比べながらしっかりと聞こう。

④ 自分の意見は，大きな声で，具体的にわかりやすく伝えよう。

⑤ 疑問に思ったことや付け足したいことがあれば，発言をしよう。

⑥ ノートには，黒板に書かれたことを写すだけでなく，先生の説明や仲間の発言，自分の考えを書き加えるなどしてくふうして作りましょう。

⑦ 考えをまとめたり，発表したりするときには，たずねられていることと答えがあうように心がけよう。数学では，理由をたずねる，方法をたずねる，事実をたずねるの３つに大別されます。

【家庭学習】

① 授業で学習した内容に関連する問題でしっかりと練習することが大切です。計画的に問題集を使って力をつけましょう。

② わからない問題や間違えた問題は解答や教科書を参考に理解できるように努めましょう。

③ 解答を写した問題は，必ずもう一度解き直し，自分の力で解けるようにしましょう。

④ 提出する問題集の問題が難しくなかなか仕上がらない時は，先生のところへ早めに相談しに行きましょう。

⑤ 問題集を解く力に余裕のある人は難しい問題（集）に挑戦し，力をつけていきましょう。

⑥ 納得できるまで考えることができる家庭学習の時間を有効に活用しましょう。

【テスト勉強】

① 授業で学習した内容をよく復習しましょう。

② 授業の進度に合わせた日頃の家庭学習が大切です。計画的に問題集を解き進めておきましょう。

③ 定期テストや実力テストの範囲を目安に，学習内容の理解が不確かになっているところはないか点検し補充するようにしましょう。

理　科　学習の仕方

【授業中】

授業の受け方

・自然事象に興味をもって授業に参加しましょう。
・友だちの発表を聞きもらさないようにし，自分の考えとの違いや共通点を見つけよう。
・発表するときや，班で活動・相談するときは自分の考えを積極的に相手にわかりやすく伝えるようにしましょう。
・先生の指示をよく聞き，安全に実験・観察できるようにしましょう。

ノートのとり方

・板書を写すだけでなく，先生が話した内容等で補足しながらわかりやすくまとめましょう。

実験・観察

・説明をしっかりと聞き，ペアや班全員で取りくみ，見ているだけの人がいないようにしましょう。
・積極的に参加し，安全には十分注意しましょう。
・手順どおりに作業し，結果を出すだけでなく，結果からしっかりと考察しましょう。
・方法や結果，自分の考察をまとめておきましょう。

【家庭学習】

復習

・学習した日のうちに問題を解き，わからないところや間違ったところをしっかり確認しましょう。
・復習をしていてわからないことや疑問に思うことは，先生に聞き，解決しておきましょう。
・実験や観察の結果をまとめましょう。
・授業のノートや教科書をもとに，新しく学習した用語をきちんと理解しましょう。
・学習した内容と身近な科学事象との関わりを調べ，ノートにまとめましょう。
・計算問題や作図は繰り返し解きましょう。
・一度解いた問題も繰り返し解き，知識を定着させましょう。
（間違ったところは，何が間違っていたのかをきちんと確認しておきましょう。）

興味をもつために

・不思議に思う身近な科学事象についてどんどん調べていきましょう。
・学習したことが身のまわりのどんなところでおこっているのか，利用されているのか調べてみよう。

【テスト勉強】

・ノート，教科書や資料集を用いて，語句を確認しましょう。また，その語句を説明できるようにしておきましょう。
・ワークやプリントの問題を繰り返し解きましょう。特に一度間違った問題は重点的に解くとよいでしょう。
・実験や観察の手順や器具の使い方を確認しましょう。
・実験や観察の結果から導き出せる法則や定理を文章で説明できるようにしておきましょう。
・提出物は計画的に進めておきましょう。

音楽科　学習の仕方

【授業中】

①授業前に準備物（教科書、プリントなど）を用意し、開始・終了は、挨拶をしっかりしましょう。
②授業準備物を忘れないようにしましょう。
③授業中は集中して、指導者の話をしっかり聞きましょう。
④提出プリントは、提出用を意識し、ていねいな字でみやすく書きましょう。
⑤音楽表現は、自分をのばす気持ちを強くもって、全体での表現、グループでの表現と意欲的に取り組みましょう。
⑥音楽表現の創意工夫は、仲間とのつながりを大切にし、仲間から学ぶという姿勢でのぞみ、音楽表現の技能に活用しましょう。
⑦鑑賞では、静かに聞く態度はもちろんのこと、仲間とのコミュニケーションも含め、仲間の考えを積極的にとりいれ、知識や教養をのばしましょう。

【家庭学習】

①表現については、授業で学んだことを生かし、繰り返し練習を行いましょう。音を奏でるときは、まわりの環境を意識し、場所を考えて練習しましょう。
②鑑賞については、日常生活のなかで、習った音楽の振り返りができる場面をつくり、その音楽を口ずさむことも必要です。家庭にある手持ちの別の楽曲でも音楽に親しみましょう。そして、集中力を高めましょう。

【テスト勉強】

①表現の実技については、繰り返し練習をし、息の流れを感じて表現できるようにしましょう。また、暗譜できるまで取り組みましょう。
②グループテストの場合は、自分だけの表現にとどまらず、仲間の音楽も聴いて、アンサンブルができる状態にしましょう。
③音楽の要素に着目し、授業で取り組んだ曲の諸記号を覚えましょう。
④ハ長調をはじめ、シャープ１個程度、フラット１個程度の調の階名が書けるようにしましょう。
⑤鑑賞曲については、作曲者名や楽曲について必要な音楽の要素を覚えましょう。
⑥器楽で学んだ楽器は、楽器の構造や運指や調弦、使用する部品などを覚えましょう。

※音楽の評価は、授業でどのように表現の創意工夫をして取り組んだか、技能の向上に努めたか、また意欲的に仲間と協力して鑑賞したかが大切であると考えます。
　また、提出物として活動記録用紙があります。これは、日頃の授業の課題を含めた、自己を見つめ直す大切な用紙で、評価と密接に結びつきます。
※年に一度、ペーパーテストを行いますが、ペーパーの知識理解だけが優れていても音楽表現の学力が高いとは判断できない教科であると考えます。
※知識・理解のための教科ではなく、授業のなかで音楽表現を考え、美しい音楽が奏でられる学力をつけていくことを目指します。

美術科　学習の仕方

【授業中】
①準備をする。→ ②課題を知り、制作する。→ ③整理をして後片付けをする。
学習上の注意

・学習内容に必要な材料など忘れ物をしないようにする。
・その日の課題をつかみ、集中して取り組む。
・今日の制作を振り返り後片付けと清掃をする。
・完成することをあきらめずに、最後まで完成させる。
・様々なことに興味や関心を持ち、それらのことを基にして制作に挑戦する意欲を持つ。また、持続させる。

【家庭学習】☆家庭学習の仕方、日頃取り組んでほしいことなど。

①身の回りにあるものに関心を持つことから始めよう。（観察しよう。）

身の回りにあるいろいろなものや、出来事に目を向け関心や興味を持ち、見たり、感じたり、体感したりすることから始めよう。（体験すること、経験したこと大切にする。）

②感性を磨くこと。

美しい夕焼けや道端の名もなき花の美しさに心を止めることのできる心のゆとりを持とう。

美しものを美しいと感じられるということを大切にしよう。

③自然・芸術・美術に親しもう。（鑑賞しよう。）

自然・美術・芸術に関心を持ち、美しい花や景色、屋外彫刻や建築に関心を持ち、美術館、博物館、歴史館等へ足を運び、本物の芸術にふれる機会を作ろう。

④メモやスケッチをしよう。（メモ用紙、スケッチ帳を持とう。）記録を残そう。頭に浮かんだ発想をメモしたり、スケッチに残したり、美しい風景や花をスケッチする習慣を作ろう。

⑤制作してみよう。

趣味の中に、絵を描いたり、彫刻を作ったり、デザインやイラストを描くことによって、自己表現にチャレンジしていこう。

⑥調べてみよう。（深める。）

わからないこと、興味を持ったこと、関心のあること、もっと知りたいことについて、とことん調べてみよう。

⑦根気強く続けよう。

どんなことでも、やり始めたら最後まで完成させよう。「継続は、力なり」です。力をつけるには、何よりも努力を続けていくことです。

テストはしません。毎回の授業がテストです。

保健体育科　学習の仕方

【授業中】

[体育分野]

○授業への実質的参加を第一に考えましょう。
- 健康管理に細心の注意をし、欠課、欠席、見学をしなくてもよいようにしよう。
  （見学の場合も原則として体操服を着用します）

○安全への配慮をしましょう。
- 指定された体操服、体育館シューズを正しく身につけよう。（爪も短くしておく）
- 準備、片づけなど場の安全を確認してから行動しよう。

○課題意識をしっかり持ちましょう。
- どうしたらうまく表現できるのか意識して取り組もう。
- 教えあう仲間を大切にし、互いに学びあう関係を築こう。
- 個人カードを活用し、学びの振り返りをしよう。

[保健分野]

○課題意識をしっかり持ちましょう。
- 健康を巡る諸問題を学びます。プリントまたは専用ファイルを活用し、学んだ内容を整理しておこう。
- ともに考える仲間を大切にし、互いに学びあう関係を築こう。

【家庭学習】

○健康管理が問われます。健康な状態で授業に臨めるように体調を整えましょう。
- 手洗い、うがいの励行、十分な睡眠、適度な運動、必要な栄養摂取など、健康を維持する行動を心がけよう。また、保健分野で学んだことで実践化できるものは進めていこう。

○スポーツ事象に関心を持ちましょう。
- “観る”たのしみ方も学びのひとつです。様々な形態で高度化されたスポーツがメディアから流れてきます。ゲームの中で何が行われているのか興味を持って観ていきましょう。

○人々の生活に関心を持ちましょう。
- 様々な生活環境・基盤・背景のもとで人は暮らしています。その要因に関心を持ち、暮らしとの関わりを考えてみましょう。

【テスト勉強】

○授業で学んだことが出題の範囲となります。体育分野については、からだで得た感覚を整理する、また副読本など実技資料集でからだの動きやレギュレーション（規制・規則）を確認する。保健分野については、授業で使用したプリントや教科書の内容、領域によっては実習の手順を確認する。

技術科　学習の仕方

【授業中】

・授業を臨むにあたり、準備物を用意しましょう。
・作業をする時は服装を整えましょう。木工室の場合は安全面・衛生面のことを考え、ジャージまたは体操服を準備しましょう。
・授業中話したことはしっかり聴き、必要に応じてノートに書き込んでおきましょう。さらに応用的なこと（日常生活）に活かせるようにしましょう。
・製作については、個人製作では、説明を聞いた後、丁寧に安全に取り組みましょう。
グループ製作では、他の班員に任せるのではなく、積極的に取り組みましょう。
施設、道具を使用する場合、火気、用具、道具の扱いに注意し、安全で事故やケガをしないように心がけましょう。

【家庭学習】

・学習した内容で分からない部分は復習しておきましょう。栽培の知識や実践した経験、ものづくりにおける道具の安全な使い方など実生活で活かせるものは実践していきましょう。

【テスト勉強】

・授業で書いたノート・プリントを中心に復習しましょう。授業で話したことを、ノートを見ながら思い出しておきましょう。
・授業中に行った。作図や作業の手順を覚えておくとよいでしょう

家庭科　学習の仕方

【授業中】

○授業に臨むにあたり、準備物を整えましょう。
・教科書・ファイルの準備に加え、各種実習を行う際には、次の準備物を整えましょう。
調理実習：エプロン・マスク・三角巾・フキン
被服実習：裁縫道具
＊実習で用いる材料等は、基本的に学校で用意します。

○学習したことを、日常生活に生かす意識をもちましょう。
・授業を通してわかったこと・できるようになったことを、日常生活につなげることが大切です。

○課題意識をもって、学習に臨みましょう。
・生活をよりよくするための課題を見出すこと、またその課題解決のためにどう取り組めばよいかという意識をもって、授業に臨みましょう。

○仲間と学びあう関係を大切にしましょう。
・仲間は自分が気づかなかった新しい考え方に気づかせてくれる大切な存在です。仲間と学びあう関係を大切にしましょう。
・自分の考えを確かなものにするために、それをより的確に仲間に伝えるために、また仲間の考えをしっかりと受け取るために、話す・聴く・書く活動の充実に努めましょう。

【家庭学習】

○学習したことを、実践してみましょう。
・実習を通して学んだことを実践してみましょう。そこで新たに気づいたことや発見したことがあれば、ぜひ聞かせてください。仲間とともに共有し、次の学習につなげます。

○さまざまな人々との関わりを大切にしましょう。
・家族をはじめとする自分にとって身近な人々だけでなく、自分とは異なる世代の人々等との出会いも大切にしましょう。「全ての人々にとってのよりよい暮らし」の実現に向けて取り組む上で、仲間同様自分の学びを深めてくれる貴重な存在です。

【テスト勉強】

○定期テスト：教科書の内容・授業で用いたプリントが中心となります。

○実技テスト：調理及び被服の基礎的な技能をはかるものです。練習の時間を設けた上で実施します。

英語科　学習の仕方

【授業中】

①準備物を整え、課題を済ませてから、授業に臨みましょう。
②発音や音読ではしっかり口を動かし、発声しましょう。
③先生の説明や仲間の発表・発言を聴き合い考え深めましょう。
④コミュニケーション活動（ペア、グループ）や課題（英作文、練習問題など）に積極的に取り組みましょう。
⑤先生や仲間の質問に積極的に受け答えしましょう。
⑥わからないことがあったときは、解決方法を仲間や先生に聞きましょう。
⑦ノートには、黒板に書かれたことを写すだけでなく、先生の話や仲間の発言などわかりやすくまとめましょう。
⑧課題やワークなど返却されたら、自分の間違えた箇所などを必ず見直しましょう。
⑨プリントを整理してファイルに綴じ、復習や提出ができるようにしましょう。

【家庭学習】

《必修編》
①学習した日に復習をしましょう。（単語・文法・音読・練習問題など）
②定着させるために、語句や本文を何度も繰り返して音読したり、書いたりしましょう。
③ワークや調べ学習、スピーチなどの作成・練習等、課題に取り組みましょう。
④語句調べ・語句練習・本文写しを行いましょう。

《ステップアップ編》
①ラジオやテレビの語学講座に挑戦しましょう。
②映画や音楽など英語を聞き、セリフや歌詞を覚えましょう。
③日記を書いてみましょう。（週に１回や長期休暇など）

【テスト勉強】

①語句や英文を英語⇔日本語にできるよう覚えるまで音読したり、書いたりしましょう。
　⇒中学校の教科書に載っている英文は基本中の基本です。基本が身についてこそ表現力や応用力がつくものです。すべての英文を暗記するつもりで取り組みましょう。
②授業で使ったプリントも復習しましょう。文法や語句についての説明や問題に取り組むコツが載っています。
③ワークや練習問題のプリントは、次のやり方で取り組んでいきましょう。
　１．自力でやってみる。
　２．わからないところは、教科書やノートを参考にしてやってみる。
　３．ワークやプリントの解説を見ながらやってみる。
　４．答え合わせをし、間違えたところについては解説を読み、わからないところは仲間や先生に質問する。
④ワークや練習問題のプリントは何度も繰り返し取り組みましょう。

第１学年国語科

1 学習のねらい	・話したり聴いたりして考えをまとめようとすること，文章を書いて考えをまとめようとすること，読書に親しみものの見方や考え方を広げようとすることに意欲をもって取り組む。 ・目的や場面に応じ，構成を工夫して話す能力，話し手の意図を考えながら聞く能力，話題や方向をとらえて話し合う能力を身につける。 ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け，目的や意図に応じて適切に使うことができる。 ・文章の表現や論理の展開を分析しながら読み，筋道立てて考えることで内容を的確にとらえ，自分の思いや考えを確かなものにすることができる。 ・身の回りの多様な表現から文字文化に触れ，効果的に文字が書ける。

2 評価の観点と評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①国語に対する関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，国語に対する認識を深め，話したり聞いたり書いたりして考えをまとめ，読書を通してものの見方や考え方を広げようとする。	提出物，授業態度，発言など 作文・ノート・ワークシートの記述内容 定期テスト・小テスト
	②話す力・聞く力	目的や場面に応じ，構成を工夫して話したり，意図を考えながら聞いたり，話題や方向をとらえて話し合ったりする。	リスニング，発言，スピーチなど 定期テスト・聞き取りテスト
	③書く力	目的や意図に応じ，構成を考え，自分の考えや気持ちを根拠を明確にして文章を書く。	定期テスト，ワークシート，ノート，作文など
	④読む力	目的や意図に応じ，様々な本や文章などを読み，内容や要旨を的確にとらえて，自分のものの見方や考え方をもつ。	定期テスト，感想，ワークシート， 読み取りメモなどの記述内容
	⑤言語に対する知識・理解・技能	伝統的な言語文化に触れたり，言葉の特徴やきまり，漢字などについて理解し使ったりするとともに，文字を楷書で書き，漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書く。	定期テスト，小テスト，書写など

３　指導計画　　※表中の囲み数字はその教材の時間数を表す。

月	教材名及び時間数	つけたい力	月	教材名及び時間数	つけたい力
4	オリエンテーション 朝のリレー③	正確にわかりやすく音読する。構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持つ。	6	活字と手書き文字・画数・筆順①	漢字について理解を深める。
				空中ブランコのりのキキ⑤ 鳥の目になって①	場面の展開や人物の描写に注意して読む。自分のものの見方や考え方を広くする。
	オオカミの友だち③	正確にわかりやすく音読する。場面の展開や人物の描写に注意して読む。自分のものの見方や考え方を広くする。		音声のしくみとはたらき①	音声のはたらきやしくみについて理解を深める。
	聞き上手、話し上手になるために④	日常生活の中から話題を決め，全体と部分、事実と意見の関係に注意して話を構成する。相手の反応をふまえながら話す。効果的な話し方についての知識を生かして話す。		チームの力を引き出す④	相手の反応をふまえながら話す。質問しながら聞き、考えの共通点や相違点を整理する。話題や方向を捉えて的確に話したり、発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめる。
5	クジラの飲み水④	語句の意味を的確に捉える。要約する。要旨を捉える。構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつ。	7	字のないハガキ②	自分のものの見方や考え方を広くする。情報を集める方法を身につけ、目的に応じて情報を読み取る。
	ことばの単位・文節の関係②	ことばの単位を理解する。		漢字を身につけよう１２①	常用漢字を読む。
	調べたことを整理して、わかりやすく⑥	日常生活の中から課題を決める。材料を分類して整理する。段落を考えて文章を構成する。根拠を明確にして書く。文章を読み返し、読みやすくわかりやすい文章にする。	8	漢字を身につけよう３４①	常用漢字を読む。
				話しことばと書きことば①	語句・語彙について理解を深める。
				部首と成り立ち①	漢字について理解を深める。

月	教材名及び時間数	つけたい力	月	教材名及び時間数	つけたい力
9	故事成語―矛盾③ 漢文の読み方①	音読して、古典のリズムを味わう。古典にはさまざまな種類の作品があることを知る。語句の意味を的確に捉える。訓読の仕方を知る。		見えないだけ②	語句の意味を的確に捉える。構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持つ。自分のものの見方や考え方を広くする。
	玄関扉⑤ 主張・事実・理由づけ①	中心部分と付加部分、事実と意見を読み分ける。要約する。要旨を捉える。自分のものの見方や考え方を広くする。情報を集める方法を身につけ、目的に応じて情報を読み取る。		漢字を身につけよう５①	常用漢字を読む。
				比喩・統治・反復・対句①	辞書的な意味と文脈上の意味に注意し、語感を磨く。比喩や反復などの表現技法について理解する。
	食感のオノマトペ⑤ 説得力は文字以外でも①	正確にわかりやすく音読する。中心部分と付加部分、事実と意見を読み分ける。要約する。要旨を捉える。	1	少年の日の思い出⑥ 語っているのは誰？①	場面の展開や人物の描写に注意して読む。構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持つ。自分のものの見方や考え方を広くする。
10					
	目的や相手に応じて、情報を編集する⑥	材料を集めながら自分の考えをまとめる。材料を分類して整理する。文章を読み返し、読みやすくわかりやすい文章にする。		単語の類別・品詞②	単語の類別を理解する。
				多角的な視点で作品を読み解く⑥	材料を分類して整理する。根拠を明確にして書く。文章を互いに読み合って意見を述べ、自分の表現に生かす。
	漢字を身につけよう５６①	常用漢字を読む。			
				この小さな地球の上で⑤	語句の意味を的確に捉える。構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持つ。自分のものの見方や考え方を広くする。
	月を思う心①	音読して、古典のリズムを味わう。古典にはさまざまな種類の作品があることを知る。語句の意味を的確に捉える。	2		
11	竹取物語⑤ 古典の仮名遣い①	音読して、古典のリズムを味わう。場面の展開や人物の描写に注意して読む。構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持つ。自分のものの見方や考え方を広くする。文語の決まりを知る。		思いや感覚に向き合い、考えを確かなものに⑤	日常生活の中から課題を決める。材料を集めながら自分の考えをまとめる。段落を考えて文章を構成する。根拠を明確にして書く。文章を互いに読み合って意見を述べ、自分の表現の参考にする。
	漢字を身につけよう７８①	常用漢字を読む。		即興劇にチャレンジ②	相手の反応をふまえながら話す。効果的な話し方についての知識を生かして話す。
	トロッコ⑥ 書かれていない気持ち①	語句の意味を的確に捉える。場面の展開や人物の描写に注意して読む。構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持つ。	3		
				漢字の音と訓① 漢字を身につけよう９①	漢字について理解を深める。常用漢字を読む。
	接続する語句・ 指示する語句①	指示語や接続する語句に注意する。		一年間の自分とクラスを振り返って⑦	一年間で学習したことをふまえて、わかりやすい文章を書く。
	論理で迫るか、感情に訴えるか④	交流して材料を集め、整理する。全体と部分、事実と意見の関係に注意して話を構成する。相手の反応をふまえながら話す。効果的な話し方についての知識を生かして話す。話題や方向を捉えて的確に話したり、発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめる。		《書写》 楷書を書こう⑧	楷書の基本的な筆使いに注意し、筆順に注意して字形を整えて書く。楷書の字形の整え方を理解して書く。
12			一学期		
			二学期	楷書と仮名を書こう⑥	平仮名の整え方や筆遣いを理解し、形を整えて書く。楷書と平仮名をバランスよく調和させて書く。
	変わり身の上話②	材料を集めながら自分の考えをまとめる。文章を互いに読み合って意見を述べ、自分の表現の参考にする。	三学期	行書を書こう⑧	行書の筆使いや字形を理解し、点画の変化や連続に注意して書く。行書の特徴を理解し、正しく書く。

第１学年社会科

1 学習のねらい	・社会的事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，よりよい社会とは何かを考え，自覚をもって責任を果たそうとする態度を養う。 ・社会的事象から課題を見いだし，社会的事象の意義や特色，相互の関連を多面的・多角的に考察し，社会の変化を踏まえ公正に判断するとともに，適切に表現する力を養う。 ・平素から各種の資料に親しみ，社会的事象に関する有用な情報を適切に選択して活用する力を養う。 ・社会的事象の意義や特色，相互の関連を理解し，その知識を身に付け，公民としての基礎的教養を培う。		
2 評価の観点と評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①社会的事象への関心・意欲・態度	社会的事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，よりよい社会とは何かを考え，自覚をもって責任を果たそうとする。	ノートへの復習やメモ，提出物・忘れ物，授業中の挙手，授業態度，定期テストでの社会的事象に対する関心を問う問題など
	②社会的な思考・判断・表現	社会的事象から課題を見いだし，社会的事象の意義や特色，相互の関連を多面的・多角的に考察する。また，社会の変化を踏まえ公正に判断するともに，その追究や考察した過程や結果を適切に表現する。	単元レポート，思考・判断を必要とする発言，ノートやワークシートにおける考えや感想，調べたことや追究したことを表現する課題，定期テストでの思考・判断・表現を必要とする問題など
	③資料活用の技能	平素から各種の資料に親しみ，社会的事象に関する有用な情報を適切に選択して活用する。	地図・史料・グラフ・絵・パネル・表のよみとり，資料を活用する課題，定期テストでの資料活用問題など
	④社会的事象についての知識・理解	社会的事象の意義や特色，相互の関連を理解し，その知識を身に付けている。	小テストや定期テストでの社会的用語をチェックする問題など

3　指導計画

月	教材名及び時間数	つけたい力	月	教材名及び時間数	つけたい力
4	世界の姿 （６）	地球儀や世界地図を活用して，地球上の位置や主な国々の名称・位置，世界の地域区分を意欲的に追究することができる。		文明のおこりと日本の成り立ち （１０）	人類の出現，古代文明の特色，日本列島における人々の生活の変化，大和政権による王権国家が形成されていく過程に関心を持ち，意欲的に追究することができる。
	世界各地の人々の生活と環境 （７）	世界各地における人々の生活の様子とその変容について様々な地域や国の地域的特色をとらえるための主題が設定でき，調査を行う際の視点や方法を身につけ，その結果や追究の課程を表現できる。	6	世界の諸地域 アジア （５）	アジアの地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し，それぞれの課題を見いだし，追究・考察した過程や結果を公正に判断することができる。
5					

7 8	古代国家の歩みと東アジア （8）	東アジアとのかかわり，聖徳太子の政治，律令国家の確立摂関政治を通して，古代の歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察することができる。	12		当時の対外関係，生活文化の展開を通して，近世社会の基礎がつくられていったことを理解することができる。
9	武士の台頭と鎌倉幕府（9）	武士の起こりから，初の武家政権である鎌倉幕府の成立という，中世前期の特色を多面的・多角的に考察することができる	1 2	世界の諸地域 北アメリカ・オセアニア（9）	北アメリカ・オセアニアの地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し，それぞれの課題を見いだし，追究・考察した過程や結果を公正に判断することができる。
	世界の諸地域 ヨーロッパ （5）	ヨーロッパの地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し，それぞれの課題を見いだし，追究・考察した過程や結果を公正に判断することができる。		世界のさまざまな地域の調査 （5）	世界の地理的認識を深め，世界の様々な地域または国の調査を行う際の視点や方法を身につける。
10	東アジア世界とのかかわりと社会の変動 （１２）	鎌倉幕府の崩壊から南北朝の争乱，室町幕府，応仁の乱後の社会的な変動という中世後期の歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察することができる。		日本の姿 （7）	地球儀や地図を活用して，地球表面上における日本の位置を緯度や経度，時差などからとらえるとともに，日本の範囲や地域構成の特徴を理解することができる。
11	世界の諸地域 アフリカ・南アメリカ （7）	アフリカ・アメリカ・オセアニアの地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し，それぞれの課題を見いだし，追究・考察した過程や結果を公正に判断することができる。	3	世界と比べた日本の地域的特色（9）	世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地理的特色を取り上げ，我が国の国土の特色を様々な面から理解することができる。
12	ヨーロッパ人との出会いと全国統一 （１２）	ヨーロッパ人の来航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその			

第１学年数学科

1 学習のねらい	・数を正の数と負の数まで拡張し，数の概念についての理解を深めることができる。また，文字を用いることと方程式の意味及び必要性を理解するとともに，数量関係などを文字を用いて表現したり，一元一次方程式を用いて解いたりすることができる。 ・平面図形や空間図形について，観察や操作などの活動を通して，図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに，論理的に考察し表現する能力を培うことができる。 ・具体的な事象の考察を通して，比例・反比例の意味を理解するとともに，具体的な事象の考察に利用することができる。 ・目的に応じて資料を収集し整理し，その資料の傾向を読み取り，表現することができる。

2 評価の観点と評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①数学への関心・意欲・態度	数学的な事象に関心をもち，数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し，数学を活用して考えたり判断したりしようとする。	授業での発言や活動の様子，提出物の内容やテストでの評価等から総合的に判断します。
	②数学的な見方や考え方	事象を数学的にとらえて論理的に考察し表現したり，その過程を振り返って考えを深めたりするなど，数学的な見方や考え方を身につけている。	テストでの評価を基に，授業や提出物での発想やアイデア，自分の発見等の内容を加味し，総合的に判断します。
	③数学的な技能	事象を数量や図形などで数学的に表現し処理する技能を身につけている。	テストでの評価を基に，授業や提出物での計算の正確さや数学的表現の仕方が適切にできているかを総合的に判断します。
	④数量や図形などについての知識・理解	数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し，知識を身につけている。	テストでの評価を基に，授業や提出物での学習した内容の理解の程度を加味し，総合的に判断します。

3　指導計画

月	教材名及び時間数	つけたい力	月	教材名及び時間数	つけたい力
4	【正の数・負の数】２５ 正の数・負の数 ０より小さい数　2 正の数・負の数で量を表すこと　1 絶対値と数の大小　2 正の数・負の数の計算 正の数・負の数の加法，減法　5	具体的な場面を通して正の数と負の数について理解し，その必要性と意味を理解することができる。 正の数と負の数を用いて様々な事象を表現したり考察することができる。 小学校で学習した数の四則計算と関連付けて，正の数と負の数の四則計算の意味を理解することができる。 正の数・負の数のいろいろな計算が正しくできる。	6	正の数・負の数の利用 正の数・負の数の利用　1 基本のたしかめ・章末問題　2 【文字の式】１７ 文字を使った式 数量を文字で表すこと　2 文字式の表し方　3 式の値　2 文字式の計算 文字式の加法，減法　3	身近な事象を負の数を用いて表現したり，処理することができる。 文字を用いることの必要性と意味を理解することができる。 文字式の表し方にしたがって式に表すことができる。 いろいろな数量を文字式に表すことができる。 文字に数を代入し式の値を求めることができる。 計算法則を理解し，一次式の加法と減法の計算ができる。
5	加法と減法の混じった計算　2 正の数・負の数の乗法，除法　3 乗法と除法の混じった計算　3 いろいろな計算　2 数の世界のひろがりと四則計算　2	数の範囲と四則計算について理解することができる。	7	文字式と数の乗法，除法　2 関係を表す式　3 基本のたしかめ・章末問題　2	文字式と数の乗法と除法の計算ができる。 等しい関係を表す式などを文字を用いた式に表すことができることを理解し，式を用いて表したり読み取ることができる。

月	教材名及び時間数	つけたい力	月	教材名及び時間数	つけたい力
9	【方程式】 17 方程式 方程式とその解 3 方程式の解き方 5 比と比例式 1	方程式の必要性と意味・方程式の中の文字や解の意味を理解することができる。 等式の性質を使って，方程式を解くことができる。 一次方程式を解く手順を理解し，いろいろな方程式を解くことができる。 比例式を理解し，これを解くことができる。	1	円とおうぎ形 円とおうぎ形の性質 2 円とおうぎ形の計量 3 基本のたしかめ・章末問題 2 【空間図形】１８ 立体と空間図形 いろいろな立体 3 空間内の平面と直線 3 立体のいろいろな見方 4	円とおうぎ形について，円周や弧の長さ・面積などを求め方を理解し求めることができる。 いろいろな空間図形について観察，操作などの活動を通して理解を深め，用語や記号を用いて表し，論理的に考察し表現することができる。 空間における直線や平面の位置関係，空間図形の構成，立体の投影図について理解を深めることができる。
10	方程式の利用 方程式の利用 4 比例式の利用 2 基本のたしかめ・章末問題 2	数量の関係に着目して，身のまわりの問題などを方程式を用いて解決することができる。	2		
	【変化と対応】１９ 関数 関数 3	具体的な事象の中から２つの数量を取り出し，それらの数量の関係を表・式・グラフに表し考察することができる。		立体の表面積と体積 立体の表面積 2 立体の体積 2 球の計量 2 基本のたしかめ・章末問題 2	いろいろな柱体，錐体および球の表面積と体積を求めることができる。
11	比例 比例の式 2 座標 1 比例のグラフ 3 反比例 反比例の式 2 反比例のグラフ 2 比例，反比例の利用 比例・反比例の利用 4 基本のたしかめ・章末問題 2	比例の関係を表・式・グラフに表し，その特徴を理解することができる。 反比例の関係を表・式・グラフに表し，その特徴を理解することができる。 比例や反比例の関係を利用して，身の回りの問題を解決することができる。	3	【資料の活用】１２ 資料の傾向を調べよう 度数分布 5 代表値とちらばり 3 近似値 1 調べたことを発表しよう 1 基本のたしかめ・章末問題 2 【１年間の復習】５ （学習状況に応じた教材を準備します。）	ヒストグラムや代表値の必要性と意味を理解し資料の傾向をとらえ説明することができる。 目的に応じて資料を収集し，表やグラフに整理し，代表値や資料の散らばりに着目しその資料の傾向を読み取りレポートを作成することができる。 （学習状況に応じた補充・深化させたい力）
12	【平面図形】１８ 直線図形と移動 直線と角 3 図形の移動 3 基本の作図 基本の作図 4	直線でできる図形について用語や記号を用いて表し，平面図形についての理解を深め，論理的に考察し表現することができる。 平行移動，対称移動および回転移動について理解し，２つの図形の関係について調べることができる。 垂直二等分線，角の二等分線，垂線の作図の方法を理解し，それを具体的な場面で活用することができる。			

第１学年理科

1 学習のねらい	・身近な植物などについての観察，実験を通して，生物の調べ方の基礎を身に付けさせるとともに，植物の体のつくりと働きを理解させ，植物の生活と種類についての認識を深める。 ・大地の活動の様子や身近な岩石，地層，地形などの観察を通して，地表に見られる様々な事物・現象を大地の変化と関連付けて理解させ，大地の変化についての認識を深める。 ・身近な事物・現象についての観察，実験を通して，光や音の規則性，力の性質について理解させるとともに，これらの事物・現象を日常生活や社会と関連付けて科学的にみる見方や考え方を養う。 ・身の回りの物質についての観察，実験を通して，固体や液体，気体の性質，物質の状態変化について理解させるとともに，物質の性質や変化の調べ方の基礎を身に付けさせる。		
2 評価の観点と評価の方法	評価の方法		評価の方法
	①自然事象への関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心をもち，意欲的にそれらを探求するとともに，事象を日常生活とのかかわりでみようとしているか。	授業中の活動（挙手，話し合い） 授業ノート・ワークシート・実験レポート（学習内容，感想や疑問の記述） 宿題（達成度）
	②科学的な思考・判断・表現	自然の事物・現象について，観察・実験を通して実証的，論理的に考えたり，分析したり，総合的に解決し，表現できるか。	授業中の活動（発言内容） 授業ノート・ワークシート・実験レポート （考察，考えた理由の記述） 定期テスト（「科学的な思考」の分野の達成度）
	③観察・実験の技能	観察・実験の操作を習得し，自然の事物・現象を科学的に探求する方法を身につけているか。	授業中の活動（観察・実験の取り組み） 実験レポート（正確な記録） パフォーマンステスト（正しい器具の扱い） 定期テスト（「観察・実験」の分野の達成度）
	④科学的な知識・理解	自然の事物・現象について，基本的な概念や原理・法則を理解し，身につけているか。	授業中の活動（知識の理解度） 定期テスト（「知識・理解」の分野の達成度）

3　指導計画

月	教材名及び時間数	つけたい力	月	教材名及び時間数	つけたい力
4	身近な自然に目を向けてみよう （５時間）	顕微鏡やルーペを正しく使うことができる。 校庭の生物の観察を行い，記録をまとめることができる。		３章　栄養分をつくるしくみ 〔生命〕（９時間）	葉のつくりを観察し，光合成の実験結果と関連づけて捉えることができる。
	１章　花のつくりとはたらき 〔生命〕（５時間）	花の観察を行い，基本的なつくりを知り，はたらきと関連づけることができる。	6	４章　植物のなかま分け〔生命〕（５時間）	植物の体の特徴を整理し分類することができる。
5	２章　水や栄養分を運ぶしくみ 〔生命〕（４時間）	根や茎の観察を行い，基本的なつくりを知り植物の体の中の物質移動と関連づけて考えることができる。			

月	教材名及び時間数	つけたい力	月	教材名及び時間数	つけたい力
6	１章　光による現象 〔エネルギー〕 （９時間）	凸レンズの実験を行い，物体の位置，像のできる位置や大きさについて捉えることができる。	12	４章　物質のすがたとその変化 〔物質〕（８時間）	状態変化の観察・実験を行い，変化するものとしないものを粒を使って説明することができる。
7	２章　音による現象 〔エネルギー〕 （５時間）	音の実験を行い，音の大きさや高さと振幅や振動数とを関連づけて捉えることができる。ガスバーナーを使うことができる。			沸点や融点を調べる実験を行い，そのちがいによって物質が分離できることを捉えることができる。
8	３章　力による現象 〔エネルギー〕 （１２時間）	物体に力がはたらくとどうなるか，力の表し方を理解できる。	1	１章　大地がゆれる 〔地球〕（６時間）	地震のゆれの伝わる規則性を見いだすことと，地球内部のはたらきと関連づけて考えることができる。
9		圧力の実験を行い，その大きさと力の大きさ・面積とを関連づけて考えることができる。	2	２章　大地が火をふく〔地球〕（６時間）	火山の特徴とマグマの性質を関連づけて説明することができる。
		水圧・大気圧と水・空気の重さとを関連づけて捉えることができる。グラフを正しく書くことができる。	3	３章　大地は語る 〔地球〕（８時間）	地層の観察記録を基に重なりや広がりを考え，化石を手がかりに過去の環境や地質時代を推定することができる。
10	１章　いろいろな物質とその性質 〔物質〕（１０時間）	物質の性質を調べる実験を行い，その特徴を整理し，それらを区別する方法を身につける。			
11	２章　いろいろな気体とその性質 〔物質〕（７時間）	気体の発生方法や捕集法を理解できる。			
12	３章　水溶液の性質 〔物質〕（６時間）	濃度を計算したり，粒を使って表したりすることができる。光の反射・屈折の実験を行い，その規則性を見いだすことができる。			
		水溶液から溶質を取り出す実験を行い，その結果を溶解度と関連づけて捉えることができる。			

第１学年音楽科

1 学習のねらい	・仲間との学びあい学習を通して、音楽の表現能力を高めるようにする。 ・分散型学習を取り入れることにより、多種の教材を効率的に学習できるようにする。 ・混声や同声の曲を通して、音楽に親しむことができるようにする。 ・文化祭で発表するクラス合唱を通して、音楽により親しみ、生活を明るく豊かなものにするよう努める。 ・西洋楽器に親しむことにより、多様な表現方法を学ぶことができるようにする。 ・我が国の伝統音楽を含め、多様な音楽を鑑賞することにより、様々な音楽に対する理解を深めるようにする。		
2 評価の観点と評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①音楽への関心・意欲・態度	・音楽活動の喜びを味わっている。 ・音楽や音楽文化に関心をもっている。 ・主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。	・音楽活動の参加の仕方、表現意欲（観察） ・実技テスト意欲（観察） ・提出物等や忘れ物の有無 ・課題学習（記録用紙）の内容 ・ペーパーテストの一部内容
	②音楽表現の創意工夫	・音楽を形づくっている要素をわかろうとしている。 ・音楽を形づくっている要素の働きを感受している。 ・音楽表現を工夫し、その表現意図をもっている。	・提出プリントでの音楽要素の工夫 ・グループ練習（観察） ・実技テスト （アーティキュレーション） ・ペーパーテストの一部内容
	③音楽表現の技能	・創意工夫を活かした音楽表現を行うための技能を身につけている。また、その表現を創造的に表している。	・実技テスト （音量、リズム、音程、音色）
	④鑑賞の能力	・音楽を形づくっている要素をわかろうとしている。また、それらの働きを感受しながら解釈したり、価値を考えたりして音楽に対する理解を深め、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	・提出プリント（鑑賞）での音楽要素を考えた工夫 ・グループでのコミュニケーション（観察） ・ペーパーテスト

３　指導計画

月	教材名及び時間数	つけたい力	月	教材名及び時間数	つけたい力
4	・校歌〔斉唱〕 （２時間） ・春〔鑑賞〕 （１時間） ・パフ〔合唱〕 （１時間） 5 ・アルトリコーダーの基礎〔器楽〕 （２時間） ・附中のハーモニー課題曲〔合唱〕 （２時間） 6 ・附中のハーモニー課題曲〔合唱〕 （３時間） ・実技テスト （１時間）	・発声や発音など音楽の基礎的な技能を身につける。 ・楽曲の構成を学び、作曲者の背景も感受しながら鑑賞し、自分の思いを表現することができる。 ・音楽活動の楽しさを体験し、音楽学習への意欲・態度が身につく。 ・基礎的な運指やタンギングを体得する。 ・ロングトーンの練習を中心に呼吸コントロールができる力を養う。 ・曲のしくみや諸記号の意味を理解し、クラスに生かした表現を工夫することができる。	7	・附中のハーモニー自由曲〔合唱〕 （２時間） ・日本の民謡〔鑑賞〕 （１時間） 9 ・附中のハーモニー自由曲〔合唱〕 （４時間） 10 ・アカペラ合唱 小人数でのアンサンブル （３時間） ・実技テスト （１時間）	・響きのある声で、曲のしくみや諸記号の意味、その効果を生かした表現を工夫することができる。 ・西洋音階との違いに着目し、日本の伝統的な音楽に親しむ。 ・響きのある声で、曲のしくみや諸記号の意味、その効果を生かした表現を工夫することができる。 ・小人数でのアンサンブルに取り組むことにより、合唱の技術力を高める。

月	教材名及び時間数	つけたい力	月	教材名及び時間数	つけたい力
11	・魔王〔鑑賞〕 （２時間）	・楽曲の構成を学び、作曲者の背景も感受しながら鑑賞し、自分の思いを表現することができる。	2	・さよなら友よ、国歌、校歌 （３時間）	・響きのある声で、旋律のまとまりを感じ、卒業式にふさわしい歌声で歌うことができる。
	・赤とんぼ （２時間）	・日本の古き良き歌に親しみ、歌詞の内容から情景を想像して、旋律のまとまりを生かした表現を工夫することができる。		・実技テスト （１時間）	
12	・アルトリコーダーアンサンブル （２時間）	・表現方法を工夫し、アンサンブルを楽しむことができる。	3	・尺八、箏〔器楽〕 （２時間）	・日本の伝統楽器に触れ、その音色を味わう。
	・さよなら友よ	・読譜力を高める。		・創作 （１時間）	・簡単なリズム楽譜を作り、仲間とともに、創作活動を楽しむことができる。
1	・アジアの諸民族の音楽〔鑑賞〕 （１時間）				
	・さよなら友よ	・曲に込められた思いに気付き、感情を込めて歌うことができる。			

第１学年美術科

1 学習のねらい	・楽しく美術の活動に取り組み美術を理解し愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。 ・対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身につけ、意図に応じて創意工夫し美しく独創的に表現する能力を育てる。 ・自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。		
2 評価の観点と評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①美術への関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を身につけるために、主体的に学習に取り組もうとする。	作品、鑑賞プリント、及び振り返りプリントから、取組の質を読み取り評価する。授業の様子を観察して、加点・減点する。
	②発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に豊かに発想し、形や色彩の構成などを工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。	作品、及び振り返りプリントから、アイディアをいかに構築しているかを読み取り、評価する。授業の様子を観察して、加点・減点する。
	③創造的な技能	感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身につけ、意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考えたりし、創意工夫して表している。	作品から、いかに自分の表現を追求しているかを読み取り評価する。授業の様子を観察して、加点・減点する。
	④鑑賞の能力	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を深めたりしている。	鑑賞プリントから、自分の見方や感じ方を大切にして、いかに作品を味わっているかを読み取り評価する。授業の様子を観察して、加点・減点する。

3　指導計画

月	教材名及び時間数	つけたい力	月	教材名及び時間数	つけたい力
4	・オリエンテーション ・自己紹介 (絵画・デザインなど) ２ｈ 絵画１ 素描（デッサン）６ｈ ・自画像の制作 自画像の制作１ １ｈ ①目的②目標③特徴 ④形の取り方 鑑賞１　　１ｈ 自画像のデッサン（鉛筆による）の鑑賞 考察 自分自身を見つめる 自分について考える	・美術の表現を積極的に行おうとする気持ちを育てる。 美術を学ぶ目的を十分に理解している。 自画像を描く目的、方法、表現について理解を深めることができる。 作品の良さや本質について十分に鑑賞することができる。 自分自身と向き合う力、内省的精神	5	デザイン基礎１ ２ｈ 鉛筆によるモノクログラテーション ・自画像の制作２ ⑤立体感の表現 ⑥質感、量感、遠近感の表現 ⑦生命感、人間的な表現へ挑戦する。自分自身の存在に迫る表現への挑戦。	均等にトーン（調子）を変化させることができる。 各升を塗りむらなく塗ることができる。 微妙な明暗の変化についてしっかりととらえ、表現することができる。 描く対象である自分自身の顔をしっかりと見つめることができる。 本質を見極める力（洞察力）

月	教材名及び時間数	つけたい力	月	教材名及び時間数	つけたい力
6	茶色による地塗り １ｈ	茶色を塗りむらなく均等に塗ることができる。		絵画２ （油彩的表現１） 絵の具によるモノクロの自画像の制作	点描的な表現で、細部まで描き込める。 内面的な表現に至れるような工夫がある。
7	灰色による地塗り １ｈ	灰色を塗りむらなく均等に塗ることができる。	10	○白色、黒色、灰色で絵の具によるデッサンをする。 デザイン基礎３ ６ｈ	
	鉛筆による下書き ２ｈ	対象である自分の顔をしっかりと観察することができる。 第１回目の素描よりも創意工夫することができる。		３原色による色相環の制作	３原色の混色から的確な１２色相環を制作することができる。
	鑑賞２ モノクロペンによるデッサンの鑑賞 １ｈ	デッサンから、その作品の良さや美しさだけでなく、作者の意図や表現の奥深さを読み取り鑑賞することができる。	11 12	鑑賞絵画２ 自画像（油彩）を鑑賞する １ｈ	・作品の魅力や美しさを鑑賞すると共に、人物の存在感や本質について関心を持つことができる。
9			1	絵画３－１ （油彩的表現３） 自画像の制作３ ７ｈ	
	デザイン基礎２ ２ｈ 絵の具の白、黒、灰色によるグラテーションの制作１ｈ	均等に色調を変化させることができる。 塗りむらなく塗ることができる。 絵の具の白色、灰色、黒色を使って明暗の変化を表現することができる。	2	明暗の変化を生かしながら実際の色を塗っていく。 ・色づくりでは、混色、重色、配色の工夫に挑戦する。	・材質感や空間（遠近感）を意識して、より本物に近づけていくことができる。 ・主題の生きている・人間、自分自身に迫る表現を目指すことができる。
	絵画２ （油彩的表現１） ７ｈ 絵の具によるモノクロの自画像の制作 ○白色、黒色、灰色で絵の具によるデッサンをする。 （4週間教育実習）	明暗の変化を絵の具の白色、灰色、黒色のトーンに置き換えることができる。 主題である、「生きている、自分自身、人間」に迫る表現を忘れることなく制作に取り組むことができる。	3	デザイン４ レタリングを学ぶ。 ５ｈ	・完成度を高める。 ・明朝体、ゴシック体について理解し、表現できる。

第１学年保健体育科（体育分野）

1 学習のねらい	(1) 運動の合理的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを味わい，運動を豊かに実践することができるようにするため，運動，体力の必要性について理解するとともに，基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 運動についての自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の役割を果たす，一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全に留意し，自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。		
2 評価の観点と評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①運動への関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう，運動の合理的な実践に積極的に取り組もうとする。また，個人生活における健康・安全について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとする。	○行動観察（準備運動，準備，片付け，服装を含めた授業への取組） ○ワークシート等の提出記入状況 ○授業の出席状況
	②運動についての思考・判断	生涯にわたって運動に親しむことを目指して，学習課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。また，個人生活における健康・安全について，課題の解決を目指して考え，判断し，それらを表している。	○行動観察（授業での課題解決のための動き，安全，話し合いなど） ○ワークシート等の提出記入状況 ○定期テスト
	③運動の技能	運動の合理的な実践を通して，運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	○行動観察（技能の習得状況） ○記録会 ○技能テスト
	④運動についての知識・理解	運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動に親しむための理論について理解している。また，個人生活における健康・安全について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。	○行動観察（授業における技能の知識，ルール） ○定期テスト（基礎・基本事項）

第１学年保健体育科（保健分野）

1 学習のねらい	「心身の機能の発達と心の健康」 (1) 個人生活における健康・安全について理解するとともに，基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他の課題を発見し，よりよい解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し，明るく豊かな生活を営む態度を養う。		
2 評価の観点と評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①健康・安全への関心・意欲・態度	心身の機能の発達と心の健康について関心を持ち，学習活動に積極的に取り組もうとしている。	○授業への取り組み状況 ○健康に関する資料の活用 ○課題解決に向けた意見交換など
	②健康・安全についての思考・判断	心身の機能の発達と心の健康についての課題を持つことができ，その解決に向けて既知の知識を活用し，科学的に考え，判断しそれらを表している。	○授業への取組状況 ○資料などで調べたことをもとに課題の解決方法を見つけ，かつ説明できる。また筋道を立てて説明できるなど ○定期テスト
	④健康・安全についての知識・理解	身体機能の発達，生殖にかかわる機能の成熟，精神機能の発達と自己形成，欲求やストレッサーへの対処と心の健康について，課題の解決に役立つ事項を理解している。	○授業への取り組み状況およびレポート内容 ○身体機能の発達について理解したことを言ったり，書いたりしているなど ○定期テスト

3　指導計画

月	教材名及び時間数	つけたい力	月	教材名及び時間数	つけたい力
4	・集団行動（4）	・安全で効率的な活動を行うために必要な態度や動作を養う。	１０	・器械運動（10）	・器械運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう，よい演技を認めようとすること，分担した役割を果たそうとすることなどや，健康・安全に留意して，学習に積極的に取り組もうとしている。 ・器械運動を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 ・器械運動の特性に応じた技を身に付けている。 ・器械運動の特性や成り立ち，技の名称や行い方，関連して高まる体力を理解している。
	・体育理論（3） (スポーツの多様性)	・運動やスポーツが多様であること，運動やスポーツの意義や効果などについて感心をもち，学習に積極的に取り組もうとしている。 ・運動やスポーツが多様であること，運動やスポーツの意義や効果などについて，学習した知識を活用したり応用したりしている。 ・運動やスポーツが多様であること，運動やスポーツの意義や効果などについて理解している。			
	・体つくり運動（8） (体力テスト)	・体つくり運動の楽しさや心地よさを味わうことができるよう，分担した役割を果たそうとすることなどや，健康・安全に留意して，学習に積極的に取り組もうとしている。 ・ねらいに応じて，体の柔らかさ，巧みな動き，力強い動き，動きを持続する能力を高めるための運動を組み合わせるとともに，学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 ・体つくり運動の意義と行い方，運動の計画の立て方などを理解している。		・保健分野（4） (心身の発達と心の健康)	・６月に同じ。
5			１１	・球技Ⅰ（12）	・球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう，フェアなプレイを守ろうとすること，分担した役割を果たそうとすること，作戦などについての話合いに参加しようとすることなどや，健康・安全に留意して，学習に積極的に取り組もうとしている。 ・球技を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 ・球技の特性に応じて，ゲームを展開するための基本的な技能や仲間と連携した動きを身に付けている。 ・球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，関連して高まる体力，試合の行い方を理解している。
	・陸上競技Ⅰ（9）	・陸上競技の楽しさや喜びを味わうことができるよう，勝敗などを認め，ルールやマナーを守ろうとすること，分担した役割を果たそうとすることなどや，健康・安全に留意して，学習に積極的に取り組もうとしている。 ・陸上競技を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 ・陸上競技の特性に応じた，基本的な動きや効率のよい動きを身に付けている。 ・陸上競技の特性や成り立ち技術の名称や行い方，関連して高まる体力を理解している。			
6			１２	・球技Ⅱ（12）	・１１月と同じ。
			1	・剣道（6）	・武道の楽しさや喜びを味わうことができるよう，相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を守ろうとすること，分担した役割を果たそうとすることなどや，禁じ技を用いないなど健康・安全に留意して，学習に積極的に取り組もうとしている。 ・武道を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 ・武道の特性に応じて，攻防を展開するための基本動作や基本となる技を身に付けている。 ・武道の特性や成り立ち，伝統的な考え方，技の名称や行い方，関連して高まる体力，試合の行い方を理解している。
	・保健分野（4） (心身の発達と心の健康)	・心身の機能の発達と心の健康について関心をもち，学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ・心身の機能の発達と心の健康について，課題の解決を目指して，知識を活用した学習活動などにより，科学的に考え，判断し，それらを表している。 ・身体機能の発達，生殖にかかわる機能の成熟，精神機能の発達と自己形成，欲求やストレスへの対処と心の健康について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。	2	・球技Ⅲ（8）	・１１月と同じ。
				・保健分野（4） (心身の発達と心の健康)	・６月と同じ。
7	・水泳の心得（2）	・水泳の事故防止に関する心得など健康・安全に留意して，学習に積極的に取り組もうとしている。 ・水泳の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，関連して高まる体力を理解している。	3	・ダンス（10）	・ダンスの楽しさや喜びを味わうことができるよう，よさを認め合おうとすること，分担した役割を果たそうとすることなどや，健康・安全に留意して，学習に積極的に取り組もうとしている。 ・ダンスを豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 ・ダンスの特性に応じて，交流ができるよう，イメージをとらえた表現や踊りをするための動きを身に付けている。 ・ダンスの特性，踊りの由来と表現の仕方，関連して高まる体力などを理解している。
9	・陸上競技Ⅱ（9）	・５月と同じ。			

第１学年技術科

1 学習のねらい	・エネルギー活用技術、情報技術、加工技術の進歩によって豊かな生活が支えられていることを理解する。 ・いろいろな材料について、その性質と特徴を理解する。 ・材料の加工に関する基礎的な技術を身につけ、作品を作り上げる達成感を味わう。		
2 評価の観点と評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①生活や技術への関心・意欲・態度	授業や実習に意欲的に取り組むことができる。 授業で学習したことをプリントに記述することができる。 計画された工程により作品を完成させることができる。	作業の様子　提出物 授業プリント
	②生活を工夫し創造する能力	製作する上での課題に気づき、どうすればよいか考え、工夫しようとできる。	授業プリント　作業の様子 テスト　　作品
	③生活の技能	部品の加工に応じた適切な道具の使用ができる。部品を正確につくり、組み立てることができる。製図をきまりにそって正しくかくことができる。	授業プリント　テスト 作品　作業の様子
	④生活や技術についての知識・理解	材料の名称、種類について正しく理解できる。材料の加工方法を知ることができる。製図の特徴とかき方を理解できる。	テスト　作業の様子

３　指導計画

月	教材名及び時間数	つけたい力
4	・生活を支える技術について考える。 くふうすることのすばらしさを知る。 （1時間）	技術の発達場面でどんな技術があるか考え，技術について興味を持つことができる。技術が生活でどのように工夫されてきたかを考えることができる。
5	・材料の特徴を調べる材料の特徴をまとめる。 （4時間）	木材や金属などの材料の性質と特徴を理解する。材料の加工方法を知る。加工の手段を知る。
6	・材料の特徴を調べる材料の特徴をまとめる材料の加工方法を調べる。（4時間）	木材や金属などの材料の性質と特徴を理解する。材料の加工方法を知る。加工の手段を知る。
6 7	・構想したものを図で表す。（3時間）	つくりたいものの構想図を考える。キャビネット図または等角図のかき方を理解する。
8 9	・作物がよく育つ環境や栽培に適した土作りを学ぶ。（2時間） 作物の植え替えや日常の手入れをする。 （1時間）	学校で栽培可能な作物の種類を知る。作物の生育条件や環境条件が分かる。作物の生育に適切な手入れができる。
8 9	・構造をじょうぶにするくふうをする。（2時間） ・のこぎりとさしがねの使い方を学ぶ。（2時間）	じょうぶな構造として三角構造を利用することを理解する。じょうぶな構造にするにはどうしたらいいか考えることができる。工具の安全な使い方を理解することができる。
11	・日本の伝統の技（技術）を知る。 （1時間）	日本の伝統の技（技術）を理解し、現在の日本の生活に生かされていることを知り、生活に生かそうとすることができる。
9 10 11 12 1 2 3	・けがきをする材料を切断する。材料をけずる。組み立てをする。 必要、特性に応じて塗装や仕切り作成など工夫をすることができる。（15時間）	材料や加工法に応じたけがき、切断、切削、組立の方法と工具を知る。材料に適した方法を選択し，正確なけがき、切断、切削、組立ができる。オリジナルの物を作ることができる。

第１学年家庭科

<table>
<tr><td>1
学習のねらい</td><td colspan="3">○（家庭分野全体のねらい）
個人及び家族の発達と生活の営みを総合的に捉えて、日々の生活活動の中で、生活の主体者として自立するとともに、家族をはじめとする他者とともに、生活課題の改善や解決に取り組む実践力をもち、明日の生活環境・文化をつくることのできる資質・能力を育む。
○（本学年のねらい）
・衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用の工夫ができるとともに、適切な選択及び手入れができる。
・布を用いた物の製作を通して、生活を豊かにするための工夫ができる。
・住居の機能について理解するとともに、あらゆる世代の人々にとって安全かつ快適な住まい方を工夫することができる。
・自分の食生活に関心をもち、その振り返りを通して、食事が果たす役割や健康に良い食習慣について考えることができる。
・栄養素の種類と働きを知り、中学生にとって必要な栄養の特徴について考えるとともに、献立づくりや用途に応じた食品の選択にいかすことができる。
・安全・安心の視点で生活を豊かにするための工夫を考えることができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">2
評価の観点と評価の方法</td><td colspan="2">評価の観点</td><td>評価の方法</td></tr>
<tr><td>①生活や技術への関心・意欲・態度</td><td>・衣服と社会生活とのかかわりについて、また衣服の手入れについて関心をもち、洗濯や補修の課題に意欲的に取り組もうとしている。
・調理及び住まいに関心をもち、献立作りや調理実習等の活動、安全な室内環境の整え方や住まい方の課題に意欲的に取り組もうとしている。
・自らの生活の振り返りから見出される食生活及び住生活をより豊かにするための生活課題に対し、その解決に向けて、意欲的に取り組もうとしている。
・自分の食生活に関心をもち、健康によい食習慣づくりに努めようとしている。
・布を用いた物の製作や献立作り等に意欲的に取り組もうとしている。</td><td>○様相観察：準備物、授業への取り組み
○プリント等の提出及び記入内容状況
○出席状況</td></tr>
<tr><td>②生活を工夫し創造する能力</td><td>・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れや管理、活用について考え、工夫している。
・家庭内事故や震災時をも想定した上で、安全で快適に住むための方法を考えている。
・生活を豊かにするための製作物を考え、製作方法について工夫している。
・自分の食生活を振り返り、健康によい食習慣づくりのための課題について考え、その改善に向けて工夫している。</td><td>○様相観察：課題解決のための取り組み、グループでの取り組み、発表時の様子等
○プリント等の記入内容状況
○作品</td></tr>
<tr><td>③生活の技能</td><td>・適切な衣服や食品を選択するための情報を収集・整理することができる。
・安全に用具を取り扱い、目的に応じた縫い方で生活を豊かにするための小物を製作することができる。</td><td>○様相観察：各活動場面における技能の習得状況
○技能テスト
○作品</td></tr>
<tr><td>④生活や技術についての知識・理解</td><td>・衣服の計画的な活用の必要性、補修の目的と方法、食事の役割や健康によい食習慣のあり方等について理解している。
・住まいの役割や基本的な機能、健康で快適な室内環境の条件を理解している。</td><td>○様相観察：各活動場面における知識の習得状況
○定期テスト</td></tr>
</table>

3　指導計画

月	教材名及び時間数	つけたい力
4	・ガイダンス(1)	・私たちの生活は、周囲の人々とのかかわりの上に成り立っていることに気づく。
	・衣服の働きを考えよう(1)	・衣服の社会生活上の働きを説明する。 ・目的に応じて衣服を着用することの大切さに気づく。
	・T.P.O を踏まえた自分らしい着方を工夫しよう（1）	・T.P.O を踏まえながら個性を生かした着方を工夫する。
5	・衣服の計画的な活用方法を考えよう(1)	・衣服の計画を立てる。 ・着用していない衣服の活用方法を考える。
	・必要な衣服を選択しよう（1）	・既製服を選ぶ際のポイントが分かる。 ・表示を正しく読み取り、目的に応じた既製服を選ぶ。
6	・衣服の手入れをしよう（5）	・衣服の手入れの必要性を理解する。
7		・衣服の材料や状態に応じて適切に手入れを行う。
	・よりよい衣生活を目指して（2）	・環境や資源に配慮した衣生活を送るための課題を明らかにする。 ・UD の視点でよりよい衣生活について考える。
9	・住まいの役割と住まい方を考えよう(2)	・住まいの役割と家族との関わりについて理解する。 ・生活行為と必要な住空間について考える。 ・日本の住まいと住まい方の特徴を理解する。

月	教材名及び時間数	つけたい力
9	・住まいの安全について考えよう（2）	・住まいの中の危険箇所について、事故防止対策を考える。
10	・災害に備えた住まい方について考えよう（1）	・災害に備えた住まい方を工夫する。
	・仮設住宅を通して住まいを考えよう（4）	・震災時を想定して、よりよい住まいのあり方を考える。
11	・防災に役立つ衣服製作（9）	・防災の視点で衣生活を捉えた上で、震災時に役立つ衣服の計画を立てる。 ・目的に応じた縫い方で製作する。
12		
1		
2	・パフォーマンスアップをめざして -食生活を振り返ろう-（5）	・自分の食生活を見つめ、問題点を見出す。 ・食事の役割を理解する。 ・よりよい食習慣づくりに取り組む。
3		・食品の栄養的特質について理解する。

（　　）内の数字は時間数を表す。

第１学年英語科

1 学習のねらい	・外国や言語・文化に対する理解を深めるとともに、英語を用いコミュニケーションを積極的にはかろうとする態度を身につける。 ・英語を聞いて話し手の考えや情報、英文の内容を理解する能力を身につける。 ・自分の気持ちや考え、身近な話題について、英語を用いて話す力を身につける。 ・英文を読んで書き手の考えや英文の内容を理解する力を身につける。 ・英語を用いて自分の考えや身近な話題について書く力を身につける。		
2 評価の観点と評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①コミュニケーションに対する意欲・関心・態度	言語や文化に対する知識や伝達能力を高めるとともに、コミュニケーション活動に対し意欲・関心をもって参加することができる。	ALTとの授業やコミュニケーション活動を含めた授業での取組の姿勢・発言・発表およびその内容、予習・復習・提出物の内容・完成度など
	②表現の能力	初歩的な英語を用いて、自分の考えや気持ち、情報など伝えたいことを話したり書いたりして表現することができる。また、発音やイントネーションを正しく理解し、声の大きさやジェスチャーを工夫する等、伝達をするためのスキルが習得できる。	テスト（定期テストや音読テストなど）、授業での取組、英作文・スピーチ・スキットなどの取組および発表など
	③理解の能力	英語を聞いたり、読んだりして、話し手や書き手の意図や内容など、相手が伝えようとすることを正しく理解することができる。	テスト（定期テストやリスニングテストなど）、授業での質疑応答や取組など
	④言語・文化に関する知識・理解	英語の学習を通して言語やその使い方についての知識を身につけるとともに、さまざまな国の文化について学んだり、自国文化について認識を深めたりすることができる。	テスト（定期テストや単語テストなど）、調べ学習、授業での取組など

3　指導計画（教材名および時間数で、（　）内の数字は時間数を表す）

月	教材名及び時間数	つけたい力	月	教材名及び時間数	つけたい力
4	Get Ready (12)	○英語であいさつできる。 ○アルファベットを正しく理解し、音読したり書いたりできる。 ○身の回りのものをあらわす英語を聞いたり話したりできる。 ○クラスルームイングリッシュを正しく理解することができる。		LESSON 2 (7) My School	○身近な人やものを紹介することができる。 ○身近な人やものについてたずねることができる。 ○三人称の代名詞や指示代名詞を理解することができる。
5	LESSON 1 (7) I Am Tanaka Kumi	○自己紹介をしたり、自分の気持ちや状態を話したり、書いたりできる。 ○am/are を理解し、使うことができる。		Words & Sounds 2 (1) 曜日と教科	○曜日と教科を表す語を聞き、正しく発音できる。 ○時間割や予定表を見て曜日や教科について表現することができる。
	Words & Sounds 1 (1) 数字 Let's Talk 1 (1) ごめんなさい	○数字を聞き、正しく発音できる。 ○謝罪の表現を覚え、会話らしく工夫して読むことができる。		Let's Talk 2 (1) 今、何時？	○時刻をたずねたり、説明したりすることができる。
			6	LESSON 3 (12) I Like Soccer	○好きなことやものについて説明したり、たずねたりできる。 ○一般動詞を理解し、用いることができる。

月	教材名及び時間数	つけたい力	月	教材名及び時間数	つけたい力
	Words & Sounds 3 (1) １日の生活	○１日の生活について英語で説明できる。		Project2　友達にインタビューしよう(2)	○インタビューをして、紹介文をつくることができる。
	Let's Talk 3 (1) どこにありますか	○場所をたずねたり、説明したりできる。	11	LESSON 7 (11) Sports for Everyone	○いろいろなスポーツについて関心を高める。
	Project1　自己紹介をしよう(2)	○友達に自分らしさの伝わる自己紹介をすることができる。			○自分のできること、できないことを表現したり相手にたずねたりすることができる。
7	LESSON 4 (11) Field Trip	○自然環境について関心を高める。			
		○複数形や数のたずね方、命令文を理解し使うことができる。		Let's Listen 4 (1) テレビ番組	○テレビ番組を聞き、内容を聞き取ることができる。
	Words & Sounds 4 (1) 季節と月	○季節や月を表す語を聞き、正しく発音できる。		Let's Talk 7 (2)	○電話表現を使うことができる。
	Let's Listen 1 (1) 店の音声案内	○音声案内を聞き、情報や指示を聞きとることができる。	12	電話をしよう	○依頼をしたり、それに対して承諾や断りをしたりすることができる。
	Let's Talk 4 (2) 買い物をしよう	○買い物において値段をたずねたり、説明したりすることができる。	1	LESSON 8 (12) School Life in the USA	○外国の中学生活を知る。
8	LESSON 5 (12)	○クラスメートについて関心を高める			○現在進行形の構造を理解し、使うことができる。
9	Our New Friend	○人や場所についてのたずね方 him/her の用法を理解し、使うことができる。		Let's Listen 5 (1) ナディムからのビデオレター	○ビデオレターを聞き、話の内容を聞き取ることができる。
	Words & Sounds 5 (1) 色と大きさ	○色や大きさについてたずねたり、説明したりできる。		Let's Talk 8 (1) 公園に行こう	○交通手段をたずねたり、説明したりすることができる。
	Let's Listen 2 (1) 先生へのインタビュー	○インタビューから必要な情報を聞き取ることができる。	2	LESSON 9 (11) Four Seasons	○日本の身近な年中行事について関心を高める。
	Let's Talk 5 (1) これだれの？	○持ち主をたずねたり、説明したりすることができる。			○一般動詞の過去形を理解し、使うことができる。
10	LESSON 6 (12) My Family	○イギリスの文化について知る。			○学校生活について紹介する英文を書くことができる。
		○三人称単数現在形を理解し、使うことできる。		Let's Listen 6 (1) 英語で昔話	○日本の昔話を聞き、話の内容を聞き取ることができる。
		○第三者について説明したり、たずねたりすることができる。	3	Let's Talk 9 (2) どうして好きなの？	○理由を問う質問とその答え方を理解し、使うことができる。
	Words & Sounds 6 (1) いろいろな場所	○場所についてたずねたり、説明したりできる。		Project3　大切なものを紹介しよう(3)	○絵や写真を使って大切な物を紹介できる。
	Let's Listen 3 (1) 先生からのお知らせ	○授業のお知らせを聞き、必要な情報を聞き取ることができる。		Let's Read (2) Alice and Humpty	○リズムや抑揚に気をつけ、物語らしく読むことができる。
	Let's Talk 6 (1) お昼ごはんを食べよう	○好みをたずねたり、答えたりできる。			

【参考資料】

新学習指導要領に準拠した通信表に改訂しました

三重大学教育学部附属中学校

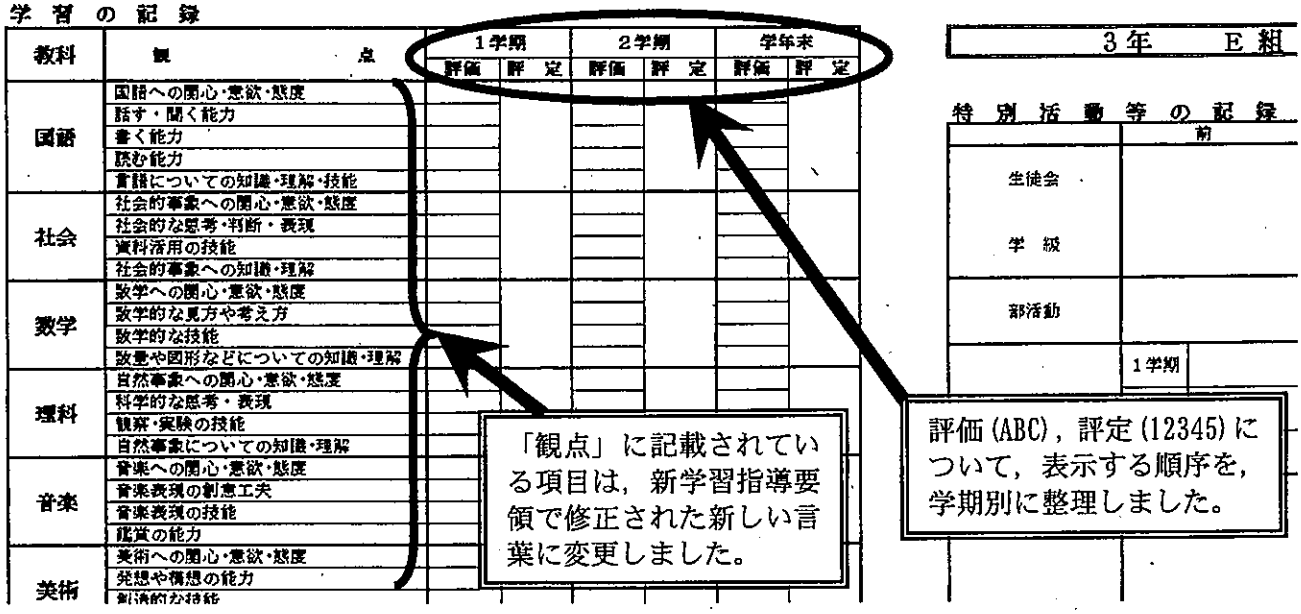
文部科学省から，平成24年４月６日付けで，24文科初第16号「中学校等の新学習指導要領の全面実施に当たって(文部科学大臣からのメッセージ)について(通知)」が通知されました。この通知の内容は，「中学校で本年度から新しい学習指導要領が全面実施されることについて，円滑な実施と趣旨の実現に向けてのメッセージ」です。

これを受けて，本校においては，新学習指導要領及びその関連通知に準拠し，シラバスの作成・周知・公開，通知表の書式の精査，学習評価の在り方など，検討などを進めてまいりました。

★通信表について

本校では，学期ごとに作成し，年間３枚を配付しています。１学期には１学期分のみが印字され，２学期には１学期のデータに加え２学期のデータを追加印字した新しい通信表をわたします。

これにより，新学期に通信表を集めませんので，御家庭に通信表がいつも手元にあって，いつでも見られ，生徒・保護者が自分の状況を振り返ることができるよう配慮しています。



※平成23年度までは，各教科において必修教科・選択教科があり，新学習指導要領では，選択教科が廃止されました。これを受けて，「通知表の見方」において「必修教科の学習」，「選択教科の学習」から「学習の記録」に一本化しました。

※その他，細かな文言修正，レイアウト修正をしました。

★学習評価(成績のつけ方)とシラバスについて

学習指導要領に示された基礎的・基本的な知識・技能，それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等及び主体的に学習に取り組む態度の育成について，バランスよく確実に身に付けさせるよう工夫改善を進めます。

そのひとつとして，シラバスを作成し，生徒に学習の進め方や内容等について説明したところです。これに基づき，各教科の目標に準拠して評価をします。単にＡＢＣを，１～５を付けていく作業ではなく，成績を付けたことにより，生徒一人一人について，今後どんな学習改善や指導が必要なのか等，学習支援を進める契機としていきます。

学習評価の改善に関する
基本的な考え方(文部科学省)

①きめ細かな指導の充実や生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため，学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する，「目標に準拠した評価」を引き続き着実に実施すること。
②新しい学習指導要領の趣旨や改善事項等を学習評価において適切に反映すること。
③学校や設置者の創意工夫を一層生かすこと。

次のことはこれまでと変わりません

①目標に準拠した絶対評価をすること。
②各教科の観点をABCで評価し，総合的判断として12345の評定を決めること。
③1・2学期の評価・評定を元に，3学期の状況を勘案して，1年間を総合した評価・評定を決めること。

具体的にこう変わります。

学習状況により評価や評定の到達ラインを適切に定めます。

「◇％以上はA」，「△点以上はA」等と，固定しません。

たとえば，「ある計算」を６月中旬に学習したと仮定します。

２学期に「この計算」をもとに新しい学習を進めていく場合，２学期に成績をつけるときには，◇や△はかなり高い数値になります。「この計算」は，初めて学んだときに比べて，練習もしっかりこなし，十分に定着していると判断するからです。

しかし，「この計算」の成績を１学期につける場合には，まだ学習したばかりなので，徐々に定着していけばよいと判断して，◇や△は低めの数値になります。計算方法や原理は学んだけれど，それを活用してしっかりと身に付けるところまでには時間的に経験が少ないと判断するからです。

このように，学習状況に応じて，到達ラインの設定を変えることで，生徒の確かな学力の定着に活かします。既習内容なのですぐに満点をめざすことも大切ですが，失敗を繰り返したり，自分でじっくりと学習を進めたりして，少しずつ自分の力に変えていく，そのような「安心して学べる」視点から，生徒の学習を支援していきます。

生徒一人一人の強み・弱みを明確にします。

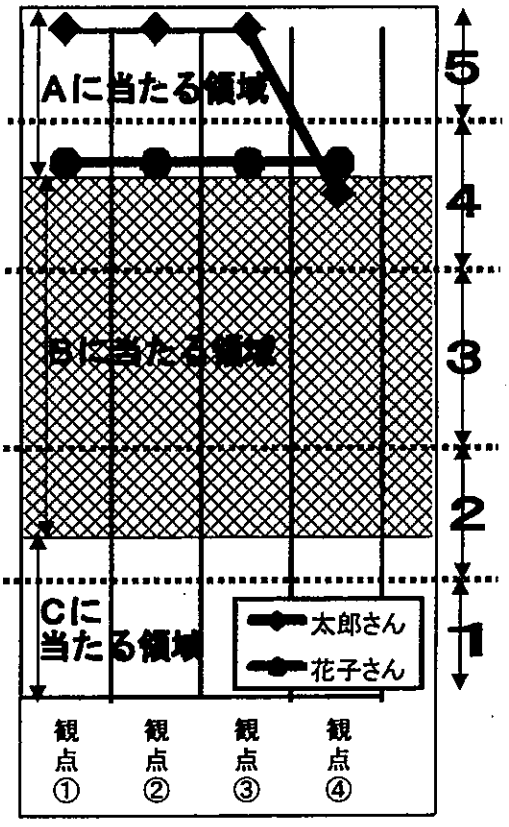
太郎さんはＡＡＡＢで５，花子さんはＡＡＡＡで４がつきました。

右図を見てください。３段階評価のＡＢＣには，幅があります。例えば，Ａといっても，「堂々のＡ」と「Ｂとの境界のＡ」があるため，すべてが「Ｂとの境界のＡ」を取った花子さんはオールＡですが，総合的な評定は４がつきます。また，「堂々のＡ」を３つ，「Ａとの境界のＢ」を１つ取った太郎さんはＡＡＡＢですが，総合的な評定は５がつきます。

見かけ上は，ＡＡＡＡとＡＡＡＢでは，ＡＡＡＡの方がよく見えますが，具体的にＡＢＣの内容や状況にまで踏み込み，生徒一人一人の強み・弱みを明確にしていきます。

花子さん(ＡＡＡＡ，４)には，「どの観点もＢとの境界ギリギリのＡの状況であるため，Ａに満足(安心)しないで，がんばっていきましょう」というメッセージを三者面談等で伝えます。

太郎さん(ＡＡＡＢ，５)には，「観点①②③についてはほとんど完璧に仕上がっているけれど，観点④についてしっかりとがんばっていきましょう」というメッセージを伝えます。



もちろん，教科担任からのこれらのメッセージは，学級担任を通じて生徒・保護者へ，直接教科担任から生徒へ，それぞれ伝えられます。単に，ＡＢＣのうちどんな記号がついたかに一喜一憂するのではなく，みなさんはＡＢＣの状況を知るとともに，教師は今後の学習の改善につながるよう指導・支援を進めます。

※上図は，説明を簡単にするために，単純化したイメージ図です。各単元・領域によって到達度(ABCの境界)は変わりますので，一律に境界値を示すことはできません。実際には到達度に関する生徒一人一人のデータやその境界値は，学習指導要領に準拠し，シラバスに基づいて算出しています。また，学習内容や学習状況によって，各観点のバランスやウエイトなど，各教科において適切に設定しています。

これらのことは，平成２４年度１学期の通知表から適用しています。
御不明な点がございましたら，遠慮なく学級担任を通じて，学校までお知らせください。